

仁了寺日誌

◆ 2月15日(土)

長島組地区同朋研修会(北部)開催。加藤博さん、伊藤繁男さん、住職参加。講師は荒山優師(名古屋市)。講題は「耳目開明—いま、つつじあう心と言葉」参加者34名。

(於・樂園寺)

◆ 2月23日(日・祝)

「同朋の会③」開催。5名参加。お題は「5色の仏旗について」。

月例寺院役員会開催。

◆ 3月2日(日)

春季永代経清掃奉仕。年番、役員。

◆ 3月12・13日(水・木)

春季永代経法要勤修。12日はお勤め後、桑名市防災課・藤井一隆氏より「防災講演」をお聞きしました。長島町北部の災害の歴史、地域ごとの「災害弱者」情報の共有を始めとする、日頃の備えの大切さを学びました。

13日には渡邊 誉師が「私たちの自分中心の心が迷いの因であること、それが死ぬまで直らないことを仏さまに教えていただく『今、浄土をいただいて生きる』とは、生活の中で教えられねばならない自分を発見することです。そしてその機会が今日の永代経です」と語られました。

◆ 3月15日(土)

長島組地区同朋研修会(南部)開催。加藤博さん、伊藤繁男さん、住職参加。講師は大橋

尚代師(大垣市)。講題は「誰をも敬う」参加者43名。

(於・野亨寺)

◆ 4月13日(日)

長島組門徒会研修会③開催。浅野武男さん、住職参加。講師は中川和子師(四日市市)。24名参加。

(於・仁了寺)

◆ 4月27日(日)

「同朋の会⑦」開催。10名参加。お題は「朱印について」。

月例寺院役員会開催。

◆ 5月10日(土)

「長島組聞法大会第5回」開催。講師は荒山信師(名古屋市)。住職参加。参加者26名。

(於・野亨寺)



◆ 仏具御寄贈

2025年

株かとう仏壇 様(弥富市)

3月 春季永代経法要

本堂内陣用朱色蠟燭…一式

年中行事予定

◆ 同朋の会

*偶数月第三または第四日曜日

※テキストは用意しています。どなたも自由にご参加ください

6月22日(日)

午後7時 開始

8月24日(日)

午後7時 開始

◆ ラジオ体操のつどい

(千倉、下坂手、上坂手、杉江など)

7月21日(月)〜8月1日(金)

午前6時30分より

以上

◆ 盂蘭盆会(うらぼんえ)法要

・逮夜(たいや)・午後のお参りを逮夜と申しします。

8月14日(木)

午後1時30分開始

午後3時 終了

・日中(にっちゅう)・午前のお参りを日中と申しします。

8月15日(金)

午前9時30分開始

午前11時 終了

◆ 秋季永代経法要

9月12日(金)

午後1時30分開始

午後4時 終了

9月13日(土)

午後1時30分開始

午後4時 終了

法話 住職

以上

「正信偈（しょうしんげ）」のおはなし⑧

① 帰命無量寿如来（むりょうじゅにょらいに きみょうし）

② 南無不可思議光（ふかしぎこうに なむしたてまつる）

から始まる「正信偈」は、親鸞聖人の主著である『教行信証』に収められている「偈文（げもん）仏の教えをたたえる歌」で、「お経（お釈迦さま直接の説法）」ではありません。正式には「正信念仏偈（しょうしんねんぶつげ）」といい、「念仏の教えを正しく受けとめ、確かめ、伝える歌」として、漢詩の形に整えられています。



親鸞聖人は「正信偈」をお作りになった意図を「お釈迦さまが説かれた『仏説無量寿経』と、インド・中国・日本の3カ国に出られた7人の高僧のご解釈によって、私たちに届けられている念仏の教えを、生きる全ての人たちと共に聞いて、確かめ、そのことを共に喜び、歌いたいのです」と述べておられます。つまり「みな共に歌う（お勤めする）」ことを前提として作られているのが「正信偈」なのです。

親鸞聖人が亡くなられて152年経ってお生まれになった本願寺第8代蓮如上人（1415-1499）が聖人の願いに立たれて、みなが共に歌ってお勤め出来るよう「正信偈」「念仏・和讃」に節を付けて儀式の様式を整えて下さり、現在に至っています。作詞の親鸞聖人、作曲の蓮如上人。私たちが歌ってお2人の願いが成就され、「正信偈」が完成するのです。



ところで1974年には「親鸞聖人御誕生800年」の記念事業として真宗十派共通通行「和訳正信偈」が制定されています。そこでは始まりの2句を

① ひかりといのち きわみなき

② 阿弥陀ほとけを 仰（あお）がなん

「極まりない、ひかり（智慧＝仏のさと）と、いのち（慈悲＝仏のおしえ）である阿弥陀仏を、お敬いいたしましょう」と、訳されています。つまり「正信偈」は「私、親鸞はこのように南無阿弥陀仏を受けとめました。皆さんはどのように受けとめていますか」という、親鸞聖人の呼びかけから始まっているのです。

永代経懇志 志納（2025年2月以降）

2025年

4月 伊藤 五郎 様（長島町福吉）
住職から

2023年3月～4月に京都・本山東本願寺で厳修された「宗祖親鸞聖人御誕生850年慶讃（きょうさん）法要」が、三重教区（三重県内21カ寺、約19,000門徒世帯）では、2026年3月と5月に勤まります。詳細は同封の『慶讃ニュース3号』をご覧ください。トップには前責任役員の浅野武男さんのインタビュー記事が掲載されています。（写真もつ！）読んでください。

三重県は南北に長く、中勢から、松阪、伊勢、志摩まで寺院が所在しています。400年前から伊勢の道場として護持されてきた桑名の御坊さんに、2時間以上かけて参詣される同行が今も大勢おられます。教えに遇って「自分に出会い直すことができた慶び」が、生きる力となった先輩方がおられた。今、その歴史に私たちが出合い直す機会がこの度の法要です。3月には長島から松阪行きの貸切バスが用意されそうです。（現在未定）ぜひ、一緒に参りましょう。ご予約ください。

